



2020年1月23日

くまごろうだより



20日は大寒でした。私の住んでいるところでは朝の気温は0度。都心では0度にならなかったようで、この冬はまだ氷が張っていないとのこと。気象庁の観測が始まってから氷の張らない年は無かったそうなので、このまま氷が張らなければ気象庁始まって以来の出来事だそうです。温暖化はある時期を過ぎると一気に加速し後戻りができなくなるといわれています。オーストラリアで起こっている火災も温暖化の影響が否めないとか。化石燃料に頼っている日本は昨年COP25（地球温暖化対策を議論する会議）で化石賞なる不名誉な賞を2回も貰ってしまいました。温暖化防止のために身近な暮らしの中で何ができるのでしょうか。とりあえず私は再生可能エネルギーで作った電力を使うことにしました。

トピックス



私事ですが、年末年始のお休みにビデオを3本見ました。その1本が「こんな夜更けにバナナかよ」というビデオでした。すでに見た方もいるかもしれませんが、大泉洋、高畑充希、三浦春馬が出演した青春ラブコメディです。一つ違っているのは主人公（大泉洋演じる鹿野靖明）が筋ジストロフィーで首と手しか動かすことができないということです。



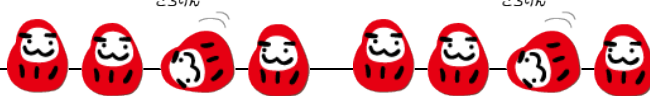
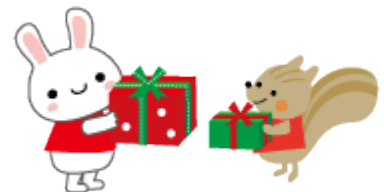
主人公は病院に縛られることを嫌い自分でたくさんのボランティアを集めアパートで独り暮らしをしています。「そして夜中にバナナが食べたいから買ってきて」とボランティアに言います。夜中の町で必死にバナナを探し買ってくるボランティア、でもなぜこんなことをしなくてはならないのか…。

なんでも自分でできる人（私にも）にしてみれば自分で動けな事の意味がなかなか理解できません。

欲求を満たすことのどこまでが了解されてどの欲求が「わがまま」ととらえられるのか…。トイレに行きたいときに「すみません」と枕詞を付けて「お願い」しないとトイレに行けないのか…。普通の人ができることがわがままと言われたり、「お願い」しなければ生命も維持できない立場があると訴えが心に刺さります。

なんでこんなことまで、というボランティアの気持ちも私の気持ちの一つです。いろいろ考えさせられる作品でした。

他の2作は「アベンジャーズエンドゲーム」と「立ち上がる女」です。あらすじと感想は省略します。



お知らせ

練馬事業所

研修会 2月20日（木）18：30～

練馬事務所

「気づき力をアップしてヒヤリハットをなくしましょう」
プリントを見ながらいろいろ感じたことを話あってみたいと思います。

